

現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

第6講 アイディアの創出 (つづき)

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] アイディアについて、他人と議論する

1 課題 1: 説明と意見交換

各自が作ってきた資料を見ながら、グループで意見交換する

- 資料に載せたすべてのことについて、ひととおり説明すること
- 説明の途中でも、思いついたこと、疑問に思ったことをどんどん質問してよい
- 厳密な理論展開や根拠については考えなくてよい

2 課題 2: 問いと答えのリストを作成

現段階でのアイディアに基づいて、問い合わせの候補を、できる限りたくさん書く。

- あらうる質問
- 答えの予測
- 根拠として用意できる (探せばありそうな) 資料等の候補
- 現段階で参照している文献・資料

箇条書きでもいいし、表のかたち (大島ほか, 2005, pp. 36-37) でもいい。

次回授業 (1/9) 開始までに Google Classroom に提出

3 期末レポートと口頭試問

3.1 レポートの形式

この授業での「期末レポート」は、ひとつの問い合わせ立てて、それに対する「答え」「根拠」等を、一定のフォーマット (初回授業資料参照) で記述する。論文のかたちにしなくてよいので、箇条書き等で、必要な情報を短くまとめること (A4用紙1-2枚程度)。

3.2 相談

1/16 は休講です。その代わり、個別に面談をおこなって、レポート内容を決めます。

3.3 期末レポート（暫定版）

1/23の授業時に提出し、そのまま発表会をおこないます（当初の予定を変更しました）。

3.4 口頭試問

1月下旬に口頭試問をおこなう。1人15分程度。時間はそれぞれ決める。

発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は、改訂後の資料を持ってくること。試問ではいろいろなことを聞かれる可能性があるので、参照する可能性のある資料を準備しておくこと。

3.5 期末レポート（改訂版）

期末レポートをさらに改訂した場合、2/12までにGoogle Classroomに提出すること。提出されれば、レポート確定版として成績評価の対象になる。これがない場合、口頭試問時のレポートで評価する。

文献

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂（2005）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現：プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。

佐藤望ほか（2020）『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（第3版）慶應義塾大学出版会。